

巻 頭 言

九州地区大学体育連合会長 飯 干 明

今年の夏、ロンドンで開催されオリンピックとパラリンピックで、我が国の選手が活躍し、多くの感動と勇気を与えてくれたのは記憶に新しい。フェンシングの男子フルーレ団体準決勝で、日本チームが最後の1秒で同点に追いつきドイツチームに逆転した試合は、何事も最後まで諦めずにやり遂げることの大切さを教えてくれたと思う。大会での日本選手の活躍に刺激されてか、「私も愛ちゃん 感動の五輪 実体験」というタイトルで掲載された新聞記事（日経新聞、8/24）によると、オリンピック後に卓球や体操教室の申込者が増加しているという。また、スポーツ用品店では、卓球やバドミントンなどのラケットのほかに、卓球台も売れ行き好調で、競技人口の少なかった種目でも消費の裾野が広がっていると紹介されている。勇気と感度を与えてくれるだけでなく、多くの人をスポーツへ導いてくれるオリンピックの魅力を、あらためて感じることでできた嬉しいニュースである。

オリンピックや世界選手権などで、常に話題となるのがドーピングであるが、今大会で摘発されたドーピングは8件で、2004年のアテネ大会（24件）や2008年の北京大会（20件）に比べ少なかった（朝日新聞、10/20）。これは、オリンピック期間中に240の禁止薬物に対するドーピング検査が、約1万人の参加選手の半数を超える約6300検体を対象にして、150名以上の研究者により24時間体制で行われたという、オリンピック史上最大規模のドーピング検査によるものとみられる。オリンピックの熱気が残る10月8日には、再生医療の切り札といわれる「iPS細胞」の発見が評価され、医療新時代の扉を開いたといわれる山中伸弥教授（京都大学）が2012年のノーベル医学・生理学賞を受賞したという嬉しいニュースがあったが、臓器再生や難病の治療などに大きな期待が寄せられる一方で、遺伝子治療を悪用した筋肉増強をねらいとする遺伝子ドーピングも危惧されている。子どもから大人まで、夢や希望を与えてくれるスポーツの健全な発展を祈りたいものである。

オリンピックの開幕前日には、世界5大医学雑誌の1つといわれる「ランセット」で、身体活動の特集号が発刊され（Vol.380, No.9838, 2012年）、研究者33名からなる5つのワーキンググループが、世界各国のデータをもとに身体活動の現状や問題点に関する報告を行っている。それらの報告によると、世界で3割以上の成人が運動不足であり、4割以上が毎日4時間以上を座位で過ごしているという。このような運動不足が原因による年間の死亡数は、喫煙による推定死亡数（約500万人）を上回り、約530万人にもなると推定されている。そして、運動不足については、10%解消できれば約53万人、25%解消できれば約130万人の死亡を回避できると推定されている。また、運動不足は、13歳～15歳の発育期にもみられ、約80%が推奨される運動レベル（適度から激しい運動を1日に60分）に到達していないと推定されている。これらの結果をもとに、ワーキンググループは運動不足の危険性を警告する必要があると指摘している。各グループの報告をもとにすると、身体活動の不足は、世界的な課題になっているようである。身体活動は、生活習慣病の予防だけでなく、生涯にわたって充実した人生を過ごしていく上で重要な役割を果たすことから、国民の生涯にわたる体育実践に大きな影響を及ぼす大学の一般体育（金原、1991）をより充実させ、成果を世界へ発信していくことが望まれよう。

目 次

巻 頭 言	飯干 明 (九州地区大学体育連合会長)	1
提言「大学体育の授業研究の推進を」	橋本 公雄 (熊本学園大学)	4

I. 教育研究論文

1. 原著論文

水泳・水中運動の恩恵と負担は行動変容段階によって質的に異なるのか？ — 前熟考期にある大学生を対象とした意思決定バランスの分析 —	西田 順一 (群馬大学教育学部)	7
---	------------------	---

2. 実践研究

1) 心理社会的効果を意図する目標設定およびセルフモニタリングを用いた障害者スポーツ実習 — 社会的スキルとメンタルヘルスに着目して —	内田 若希 (九州大学健康科学センター) 甲木 秀典 (九州大学大学院人間環境学府) 橋本 公雄 (熊本学園大学社会福祉学部)	18
2) スキー実習におけるソーシャルサポート介入によるライフスキルの向上	磯貝 浩久 (九州工業大学) 徳永 政夫 (北九州市立大学) 高西 敏正 (北九州市立大学) 萩原 悟一 (九州工業大学) 今村 律子 (九州工業大学)	27

II. 今日の体育・スポーツ

大学体育における教育研究のこれまでとこれから	榊原 浩晃 (福岡教育大学)	35
------------------------------	----------------	----

III. 大学体育・スポーツの動向

1. 大学体育の必修化について思うこと	大浦 隆陽 (福岡国際大学)	41
2. 崇城大学における体育実技授業が必修となった経緯と現状	崇城大学総合教育健康・スポーツ一同	43

IV. 平成23年度体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議

1. 「体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」プログラム		47
2. 招待講演 台湾の体育・スポーツ — 日本と世界の影響 —	Frank J. M. Lu, Ph.D. (慮 俊宏, 博士) (国立台湾体育大学・体育研究所)	48
3. シンポジウム これからの大学体育のあり方を探る	司会 磯貝 浩久 (九州工業大学) 演者 飯干 明 (鹿児島大学) 角南 良幸 (福岡女学院大学) 杉山 佳生 (九州大学)	50
1) 日常生活に活かす大学体育講義	飯干 明 (鹿児島大学)	51
2) 体力も向上させる大学体育実習での取り組み	角南 良幸 (福岡女学院大学)	54
3) 演習授業の一例と課題	杉山 佳生 (九州大学)	57
4. 研究発表		
1) 大学体育における知識・能力の形成 (11) — 卒業時における学士力と教養体育の関連 —	柿原 一貴 (尚絅大学短期大学部) 則元 志郎 (熊本大学) 西田 明史 (西九州大学) 中熊 芳子 (平成音楽大学) 村上 清英 (中九州短期大学) 笠井 妙美 (東海大学)	59
2) 体育授業によって醸成される学士力と大学生活の充実度との関係 — 学士力関連スキルと充実度との重回帰分析から —	中山 正剛 (別府大学短期大学部) 田原 亮二 (福岡大学スポーツ科学部) 神野 賢治 (金沢星稜大学人間科学部) 丸井 一誠 (福岡大学スポーツ科学部) 村上 郁磨 (久留米大学知的財産本部)	62

3) 中国女子大学生を対象とした新しい体育授業プログラムの効果 ～健康度・生活習慣と社会的スキルに着目して～ …… 王 雪蓮 (九州大学大学院人間環境学府) 杉山 佳生 (九州大学健康科学センター)	65
4) 大学体育におけるスロージョギングの導入が女子大学生の体力に及ぼす影響 …………… 鍵村 昌範 (健康支援研究センター) 角南 良幸 (福岡女学院大学)	67
5) 大学生の水泳・水中運動における意思決定バランスおよび主観的環境が行動意図に及ぼす影響 …………… 西田 順一 (群馬大学教育学部)	69
6) 「運動の楽しさ感覚」と日常における身体活動量の因果関係 …………… 田原 亮二 (福岡大学) 中山 正剛 (別府大学) …………… 神野 賢治 (金沢星稜大学) 丸井 一誠 (福岡大学) …………… 村上 郁磨 (久留米大学)	72
7) 大学運動部所属学生の「社会性」に関する基礎的検討 — 「社会性」の測定可否に言及する — …………… 内倉 康二 (大分大学大学院研究生) 甲斐 義一 (大分大学大学院) …………… 谷口 勇一 (大分大学)	74
8) スポーツチームにおけるチームパフォーマンス予測モデル …………… 河津 慶太 (中村学園大学・非)	76
5. 特別講義 大学体育を考える …………… 橋本 公雄 (九州大学健康科学センター)	77
6. 平成23年度春季研修会に参加して 1) 平成23年度春季研修会に参加して …………… 田端 真弓 (九州大学健康科学センター学術協力研究員)	81
2) 平成23年度の教育研究会議に参加して …………… 森 正明 (中央大学)	82
7. 春期研修会を終えて …………… 西迫貴美代 (鹿児島県立短期大学)	84

V. 体育・スポーツ関連情報

1. 海外だより — カンボジアに「体育」が誕生した — …… 中島 憲子 (中村学園大学教育学部)	85
2. 大学めぐり 1) 保健医療経営大学 …………… 藤原 大樹 (保健医療経営大学)	87
2) 熊本学園大学 …………… 宮林 達也 (熊本学園大学)	89

VI. 事務局報告

平成23年度 事業報告 ……………	91
平成23年度 第1回理事会議事録 ……………	92
平成23年度 第2回理事会議事録 ……………	93
平成23年度 第3回理事会議事録 ……………	94
平成23年度 第4回理事会議事録 ……………	96
平成23年度 総会議事録 ……………	97
平成23年度 九州地区大学体育連合決算書 ……………	99
平成24年度 九州地区大学体育連合補正予算 ……………	100
平成24年度 事業計画 (案) ……………	101
「体育・スポーツ教育研究」の論文投稿の御案内 ……………	102
九州地区大学体育連合研究助成規定 ……………	103
研究助成施行細則 ……………	103
九州地区大学体育連合規約 ……………	104
平成23年度 九州地区大学体育連合役員名簿 ……………	105
平成24年度 九州地区大学体育連合役員名簿 ……………	106
平成23年度 九州地区大学体育連合 加盟大学および個人 ……………	107
平成24年度 九州地区大学体育連合 加盟大学および個人 ……………	108
平成23年度 賛助会員一覧 ……………	109
平成24年度 賛助会員一覧 ……………	109
編集後記	